

核兵器廃絶への流れ大きく

オバマ大統領演説「核のない世界を」 志位氏が歓迎の手紙

オバマ米大統領は4月5日、プラハでの演説で、歴代大統領として初めて原爆投下の責任に触れ、「米国は核兵器のない、平和で安全な世界を追求していく」と表明しました。

日本共産党の志位和夫委員長はこの演説を歓迎し、大統領あてに手紙を出して核兵器の国際条約を結ぶため、積極的なイニシアチブを発揮することを強く求めました。



「核廃絶の情熱うれしい」 米政府から返書

志位氏の手紙に対し、米国政府から「この問題に対するあなたの情熱をうれしく思う」「思慮に富んだあなたの書簡に重ねてお礼を申し上げます」という返書が寄せられました。

被爆国・日本で 国民世論広げる先頭に

志位氏の手紙と米政府返書は大きな反響を呼びました。志位委員長は衆参院議長と会談し、被爆国・日本で核兵器廃絶への国民世論を広げることで一致。日本共産党は各地で自治体首長、平和・市民団体、宗教者と懇談し、政治的立場を超えて多くの人から歓迎の声が寄せられています。

自公政権 米国の核戦力に依存

核廃絶へ歴史が動き始めているとき、自公政権は廃絶のイニシアチブを何一つとらず、米国の核戦力への依存を繰り返して求めています。唯一の被爆国の政府として恥ずかしい限りです。

日本
共産党

主張し行動し、現実動かす党。

核密約 全ぼう公開せよ 名実ともに非核の日本を



党首討論で核密約問題を追及する不破委員長(当時)=2000年4月

日米両政府が結んだ「密約」のもと、核兵器が持ち込まれ続けてきたことが、元外務次官4人の証言からも明らかになりました。

国民だまし核持ち込み

政府が約50年にわたって国民をだまして、核兵器持ち込みの仕組みを維持してきたことは許せません。核密約の全ぼうを明らかにすべきです。

「三原則」骨ぬき許せない

核密約を改めるのではなく、「非核三原則」(つくらず、持たず、持ち込ませず)を見直し、核持ち込みを認めよという動きは重大です。民主党の鳩山代表も「持ち込ませず」をはずして、核持ち込みを容認する考えを明らかにしています。

日本共産党は「非核三原則」の骨抜きを許さず、名実ともに「非核の日本」を実現するため全力をあげます。

日米核密約
1960年の安保条約改定
のとき、核を積んだ軍艦や飛行機の出入りは自由、そのときは事前協議はいらぬ、旨を
確認しあった秘密協定のこし。
その存在は、日本共産党の不破
哲三委員長(当時)が初めて国
会で明らかにしました。

北朝鮮核実験 国際社会が一致し無法ただす

北朝鮮の核実験は、みずから合意したルールさえ踏みにじる暴挙、核廃絶への機運に対する乱暴な挑戦です。この問題を解決するには、国際社会が一致した行動を

とり、北朝鮮に核兵器とその開発計画放棄を迫ること、6カ国協議に無条件に復帰するよう求めることが大切です。「非核の日本」の実現こそ最大の圧力です。